

◆シリーズ第16回 石巻市図書館牡鹿分館 館長 鈴木敏子

石巻市街を通過し、県道2号線を牡鹿半島の南端に向かって1時間程車を走らせると、真新しい標識が現れそこを右折していくと、南三陸金華山国定公園内の太平洋を眼下に一望できる鮎川浜清崎山に着きます。その一角に牡鹿交流センターが瀟洒な姿で建っており、この中に、これからお話しする石巻市図書館牡鹿分館が、平成17年11月1日誕生しました。木をふんだんに使ったこの建物は、一步入ると何故か「ほっ」とします。(通称 HOT O) 旧牡鹿町は、「クジラの町」として全国的に有名です。分館入口には、800冊のクジラ関係の図書が澄まして並んでおり、この「クジラの本」が牡鹿分館の「目玉」として、入って来た人々の目を引き付けています。他に児童書・一般書合わせて1万冊の蔵書と、DVD・CDもあり、インターネットを利用できるパソコンも設置されています。オープン後の利用状況は、公民館図書室時代の1年間の利用者数、貸出し冊数を、1ヶ月足らずでクリアするという嬉しい悲鳴をあげており、図書館の必要性が顕著に表れた証と思います。話は変わりますが、牡鹿交流センターには、他に温水プール、

浴室、トレーニングコーナー等があり、周辺には自然を満喫できる遊歩道や休憩所等が整備されていて、散策も楽しめます。海からの風も頬を心地よく撫でて、みなさんを歓迎します。是非一度「クジラの本」に会いに来てください。そして雄大な景色を堪能して行ってください。

**石巻市図書館牡鹿分館**

データ  
蔵書冊数：12,795冊(平成17年11月現在)  
開館時間：午前10時～午後7時  
休館日：月曜日(国民の祝日に関する法律に規定する休日に当たるときはその翌日)、年末年始(12月28日～1月4日)、館長が必要と認める日  
交通案内：宮城バス石巻駅前から鮎川行乗車 鮎川小学校前下車徒歩10分

住所：〒986-2523 石巻市鮎川浜清崎山7番地  
TEL：0225-45-3618  
FAX：0225-45-3619  
メールアドレス：hotmaru@city.ishinomaki.lg.jp

愛称ロゴタイプ：HOT O

このコーナーでは宮城県図書館所蔵の貴重書をシリーズで紹介しています。

と き 時空をこえて 貴重書の世界

『水族写真』編者は安政2(1855)年に刊行された木版色刷りによる魚類の図譜で、タイトルの「写真」とは、現在の用法とは異なり、「対象のありのままの姿を写し描く」といった意味です。「サクラタビ」「ホシタビ」「アケメタビ」など、当時タイと認識されていた魚類約90種の図が2冊に渡って収録されています。色を重ね合わせることで色の濃淡を表し、鱗の部分には雲母を用いて光沢を出すなど工夫をこらした表現がなされています。

著者の奥倉辰行(生没年未詳)は通称長右衛門、号を魚仙といい、神田多町の青物商甲賀屋の長男として生まれました。奥倉は幼少の頃から絵に長じていたため、考証学者から野谷権吉に認められ魚類の写生を勧められました。日本橋の魚河岸を訪ねて魚類の実物を精密に写生することを日課とし、その一部を『水族写真』として刊行しました。奥倉は魚類研究と図譜刊行に没頭するあまり、ついには家産を傾けたといわれています。

彼の研究の集大成である『水族四帖』は国立国会図書館に所蔵されており、同館のホームページ内「貴重書画像データベース」で閲覧することができます。

おくくら たつゆき すいぞくしゃしん 奥倉辰行 『水族写真』



KOTOBA  
N O  
U M I

宮城県図書館だより

ことばのうみ

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No. 21 2006. 3

特集 新聞・雑誌室活用術



企画展「図書館びっくり大賞」体感デー

とき：平成18年2月17日(土) 場所：本館2階 展示室

借り手に願う。本は大事に扱って欲しい。

霧開気は大好きなのだが、近所の図書館にさえ滅多に足を運ばない。本は専らインターネットで購入している。何冊もの重い荷物を持ち運ばなくて済むし、読んだ後は自分の蔵書にしたいからだ。

大きな図書館なら静謐と気品に満ちているので集中力を高められるし、新聞閲覧室や自習室、喫茶室で楽しめる。小さい所なら、子供たちが床に座って絵本を開いている光景が微笑ましい。繰り返すが、図書館は好きだ。

が、正直に言う。図書館の本は苦手だ。やむを得ず借りて読む時は、濡れタオルで指を拭き、乾いたのを確かめてからしか頁を捲れない。体毛や食べ物滓が挟んであったり、指を舐めて頁を捲ったとわかる唾の臭いとぬめりを感じたり、赤い線が引いてあったり、破れていたりする。係の方が懸命にメンテナンスしても、借り手のお行儀の悪さには追いつかない。本も係の方も気の毒だ。

借り手に願う。本は大事に扱って欲しい。

若合春侑

図書館からのお知らせ

平間至展 ~現在を映す平間至写真の世界~

広告写真などエディトリアルの世界を中心に幅広く活動している塩竈市出身のフォトグラファー・平間至氏。当館所蔵資料のほか、平間至事務所よりご提供いただいた地元塩竈の写真・ポスター・CDジャケットなど多くの資料により、「いまもっとも撮りたい写真家」の世界をご紹介します。

会期：平成18年5月7日(日)まで  
場所：2階 展示室  
●入場は無料です。  
●問い合わせ 3階中央貸出カウンター ☎022-377-8441

子どもの本展示会を開催します

4月23日から5月12日は「こどもの本展示会」です。県図書館では毎年この期間に合わせて「こどもの本展示会」を開催しています。昨年1年間に出版された児童書など約1500冊の中から、「あそびの本」「絵本」「読み聞かせの本」などテーマとした子どもの本も展示しています。子どもの本選びの参考に、ぜひご来場ください。

- 会期：平成18年4月21日(金)～5月7日(日)
- 場所：2階 ホール後側室
- 入場は無料です。
- 問い合わせ 2階子ども図書室カウンター ☎022-377-8447

住所変更をお忘れなく

春は入学・転勤など、お引越しの多いシーズンですね。ご住所が変わられた場合、2階子ども図書室または3階中央貸出カウンターにある登録窓口にお申し出ください。

表紙エッセイ / 若合春侑さん



わかい・すう 1958年宮城県塩竈市生まれ。東北学院大学経済学部、國學院大学文学部神道学卒業。1998年「脳病院へまゐります。」で第30回文学界新人賞を受賞しデビュー。同作および「カタカナ三十九字の遺書」「華の小石」が芥川賞候補となる。2002年には『海馬の最中』(中央公論新社)で第28回野間文芸新人賞を受賞。著書に『仲間様かくありき』(集英社 2001年)、『無花果日誌』(角川書店 2002年)、『姪姪』(角川書店 2003年)がある。

ことばのうみ

作家・高田 宏氏

本誌タイトル『ことばのうみ』は、本館第8代館長・大槻文彦編者による日本最初の近代版図語辞典『西海(せいかい)』(1889～1891年刊行)に由来する。

第21号 2006年3月発行  
〒981-3206 仙台市青葉区磯山一丁目1番地1  
TEL 022-377-8441(代表)  
FAX 022-377-8484  
ホームページ http://www.pref.miyagi.jp/library/  
編集・発行 宮城県図書館  
デザイン/印刷 株式会社同印刷